

テキスト：常木 淳 『公共経済学』（第2版）
第1章補足：社会的余剰と経済厚生

1. 租税と経済厚生（テキスト：153-157 ページ）

課税前均衡（E 点）

$$\begin{aligned} \text{社会的余剰} &= \text{消費者余剰} + \text{生産者余剰} \\ &= P^0AE + P^0BE \end{aligned}$$

課税

従量税 t が課税され、供給曲線が S^1 と上方にシフトしたとする。

課税後均衡（ E^1 点）

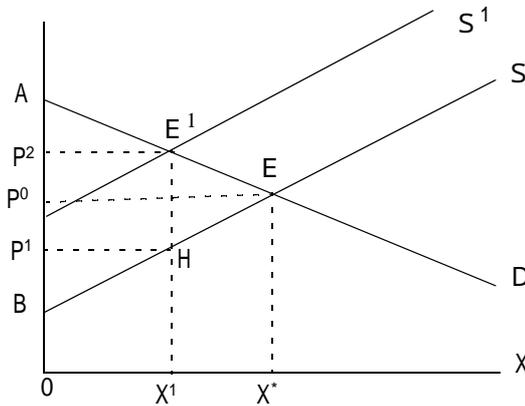
$$\begin{aligned} \text{社会的余剰} &= \text{消費者余剰} + \text{生産者余剰} \\ &= P^2AE^1 + P^1BH \end{aligned}$$

$$\text{政府税収} = P^1P^2E^1H$$

税収は、公共支出で企業や消費者に還元されるから、社会全体では余剰の損失にならない。

以上から、課税による社会的余剰の損失は EE^1H となる。

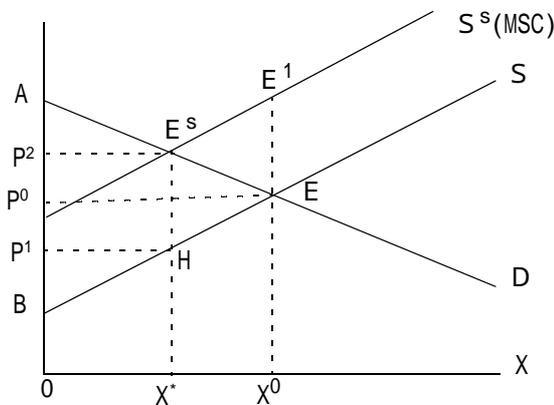
EE^1H を課税による**超過負担**（あるいは**死荷重損失**）という。



2. 外部効果（テキスト 76-87 ページ）

S：私的限界費用曲線、D：需要曲線、

S^s ：社会的限界費用曲線（単位当たり E^sH の分の社会的費用が存在するため）



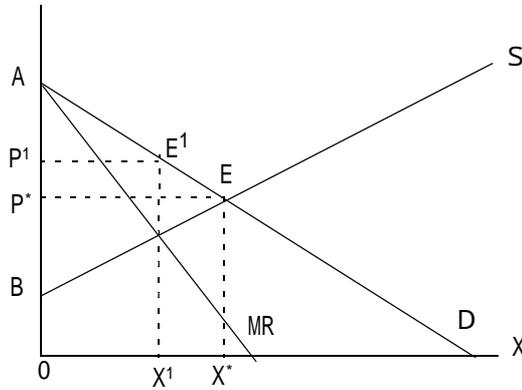
問題

市場均衡およびパレート最適はどの点で表されるかを示しなさい。
 市場均衡では、消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰はいくらか。

パレート最適を達成するには単位当たりどれだけの課税を行えばよいか。
 上の の課税によってどれだけの社会的余剰が増加するか。

3. 独占と経済厚生 (テキスト : 97-99 ページ)

下の図は供給独占市場のケースである。D は需要曲線、S は供給曲線、MR は限界収入曲線を表す。



問題

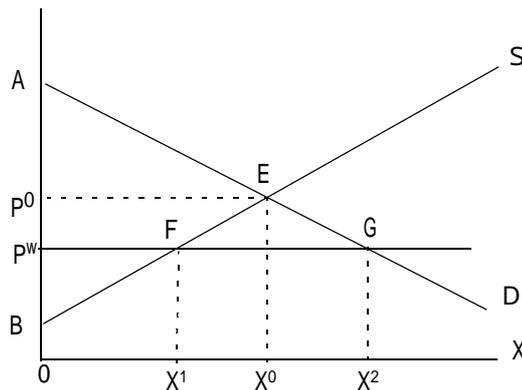
独占企業の均衡はどこか。そこでは独占企業にとっていかなる条件が満たされているか。
 独占市場における消費者余剰と生産者余剰を求めなさい。
 完全競争市場における均衡はどこか。そこではどのような条件が満たされているか。
 完全競争市場における消費者余剰と生産者余剰を求めなさい。
 独占の場合と完全競争の場合で社会的余剰の大きさを比較し、完全競争の場合の方が社会的余剰が大きいことを確認しなさい。
 このことが、独占禁止や競争促進のための規制緩和の理論的根拠になっている。

4. 自由貿易と経済厚生

ある財 X に対する国内消費者の需要曲線を D、国内生産者の供給曲線を S とする。また、世界価格は P^w で一定とする。

貿易前の国内均衡は E 点で、この財の需給は X^0 、価格は P^0 である。

ここで自由貿易が行われ、財 X が世界価格 P^w で自由に輸入されることになったとしよう。



問題

自由貿易前における、消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰を求めなさい。
 自由貿易後の、財 X の需要はいくらか。
 国内生産者の生産量、および輸入量はいくらか。
 自由貿易後における、消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰を求めなさい。
 自由貿易によって、消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰はどれだけ変化したか。